

MFK-5000 取扱説明書



〔取扱説明書〕

OFFROAD TANKBAG XL

オフロードタンクバッグXL

●この取扱説明書をよくお読みの上、安全に正しくご使用くださいようお願いいたします。
●この取扱説明書はお読みになった後も、いつでも見られるように大切に保管してください。

●部品構成

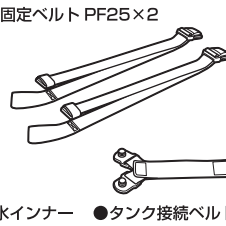


●本体

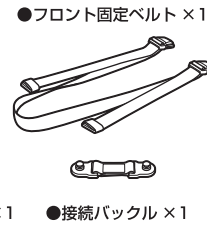


●固定ベルト PF25×2

●防水インナー



●タンク接続ベルト×1



●フロント固定ベルト×1



●接続バックル×1



●取扱説明書×1

補修パーツ (消耗品パーツ) のご案内

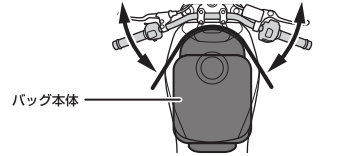
お求めはお近くの
「モトフィス取扱店」
にてご注文ください。

部品番号	名 称	セット数
MP-359	固定ベルト PF25 (1本)	1 本
MP-379	タンク接続ベルト	1 本
MP-380	接続バックル	1 本
MP-381	フロント固定ベルト	1 本
MP-382	防水インナー	1 個
●オプション MP-118	小型マグネット	1 個
●オプション MF-4789	マグベース (2個入り)	1 セット
●オプション MF-4779	タンクパッド 14	1 個
●オプション MF-4748	プロテクターシート シートバッグセット	1 セット
●オプション MFK-9000～9005	ワイヤーロック	1 個

バイクへの取り付け方法

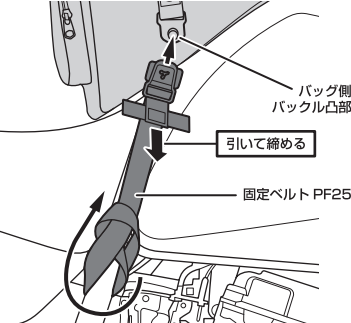
1 取り付け場所の確認

ライダーのハンドル操作、運転操作等に支障がなく、バッグ本体が安定して取り付けできる場所を選びます。



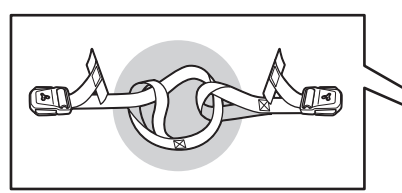
3 リア側ベルトの取り付け

固定ベルト PF25 をフレームに取り付け、バック側バックル凸部に固定ベルトのバックル凹部を嵌め込みます。



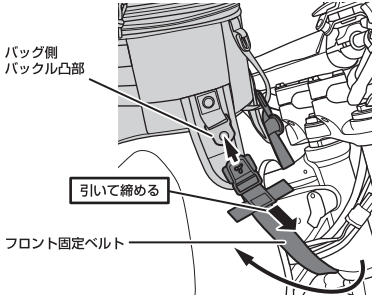
2本の固定ベルトをつなげて使用する場合

2 本の固定ベルト PF25 を図のように組み合わせシート裏の裏側を通し、バック側バックル凸部に固定ベルトのバックル凹部を嵌め込みます。

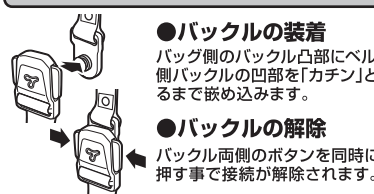


2 フロント側ベルトの取り付け

フロント固定ベルトはハンドルバー等の可動部ではなく、ステアリングヘッド等のフレームに渡し、固定ベルト側のバックル凹部をバック側のバックル凸部に嵌め込みます。



バックルの着脱方法



●バックルの装着

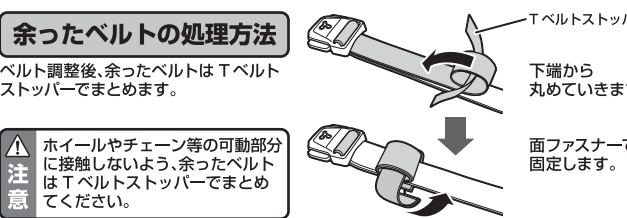
バック側のバックル凸部にベルト側バックルの凹部を「カチン」と鳴るまで嵌め込みます。

●バックルの解除

バックル両側のボタンを同時に押す事で接続が解除されます。

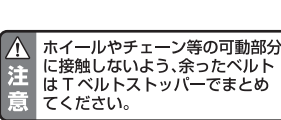
4 ベルトを調整し、確実な装着を確認

前後左右の固定ベルトに均等にテンションがかかるように長さを締めて調整し、バッグ本体が動かず、確実に装着されているかを確認します。



余ったベルトの処理方法

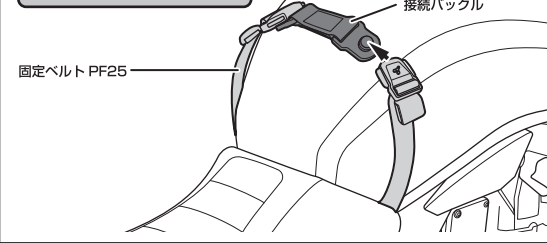
ベルト調整後、余ったベルトは T ベルトストッパーでまとめます。



ホイールやチェーン等の可動部分に接触しないよう、余ったベルトは T ベルトストッパーでまとめてください。

タンク接続ベルト・接続バックルの使用方法

接続バックル

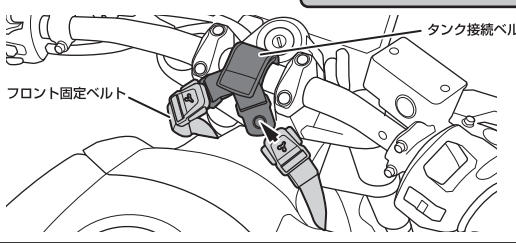


固定ベルト PF25

接続バックル

駐輪場などに車両を止め、バッグ本体を取り外して一時的に車両から離れる際に前後の固定ベルトが垂れ下がるのを防ぎます。

タンク接続ベルト



タンク接続ベルト

フロント固定ベルト

△ 注意

接続バックルやタンク接続ベルトに前後の固定ベルトを装着した状態で走行はハンドル操作の妨げになったり、車両に傷が付く恐れがあります。バッグ本体を車両から取り外して走行する際は、必ず前後の固定ベルトも取り外してください。

△ 取り付けの注意

●法令を厳守し、正しく取り付けてください。●燃料タンク・シュラウド・シート・ハンドルバーの形状等により、本製品を装着できない場合があります。事前に取り付け車両の形状と寸法、本製品の仕様と適合条件をよくご確認の上でご購入してください。●バック本体やベルト類をエンジン・ラジエーター・エキゾーストパイプ等の車体の熱くなる部分に近付けないように装着してください。●装着の際はハンドルバー・ハンドルスイッチ・メインスイッチ等との干渉や振動がない事、スロットル・ブレーキ・クラッチ等の操作に影響がない事、バックの容量拡張時でもメーター・警告灯/表示灯・ミラー等の目視確認を妨げない事を確認してください。●バック本体やベルト・バックル等が車両に接触し、擦り傷が予想される場合は事前に市販のプロテクターシート (別売り：モトフィスプロテクターシート) 等でその部分を保護してください。

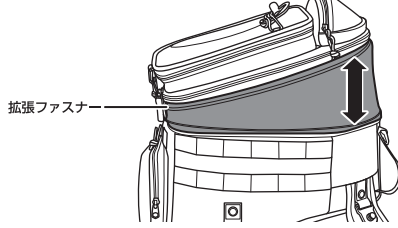
△ 使用上の注意

●走行時は必ず法定速度以下を厳守してください。●走行による振動等で固定ベルト等が緩む場合があります。走行前に緩みがないかを必ず点検し、振動に支障がない事を確認してください。●最大収納重量 (5.0kg) を超える積載はバッグの脱落や車両の破損、事故の恐れがあるので控えてください。●本製品は完全防水ではありませんので水没や激しい雨天での走行では浸水する可能性があります。電子機器や大切な荷物は付属の防水インナー内に収納し、更にビニール袋等と併用してより高度な浸水対策をお勧めします。また、外部からの浸水が無くてもバッグ内部と外気との温度差により結露が発生し内部が湿る場合があります。特にエンジン・ラジエーター・エキゾーストパイプ等の発熱部品との距離が近い車両の場合や、長時間の雨天走行をすると内部が結露しやすくなりますのでご注意ください。●角が尖った重量物を入れると内装が破損する恐れがあります。その場合は緩衝材で包んでから収納してください。●携帯ガソリンボトルやガスボンベ等の引火性の強い危険物は火災の原因になりますので収納しないでください。●林道や砂利道等の荒れた路面では振動でバッグが脱落する恐れがあります。路面の状況やスピードに充分注意して走行してください。●バックや固定ベルトを長時間車両に取り付けたまの状態で、車体に色移りする事がございます。特に暑い夏場等は適宜取り外してください。●燃料タンクが高温になり、燃料タンク表面にマグネットの痕が付く場合があります。●本製品は通常使用における耐久性を充分に考慮して縫製されていますが、擦脱、ファスナーの開閉、バックルの扱いなどで無理な力を加えると破損する恐れがあります。丁寧に取り扱いください。●バックルや固定ベルトに腐食がはつた場合は、破損や脱落の恐れがあります。必ず新しい物に交換してから使用してください。(補修パーツリスト参照) ●寸法・容量等の表記につきましては、製品ごとに多少の個体差が生じる場合がございますので予めご了承ください。●仕様・細部の形状は改良のため、予告なく変更する場合があります。●取扱説明書に記載されている使用方法及び注意に準わない誤った使用により損害が発生した場合、弊社はその責任を負いかねますのでご了承ください。

バッグの使用方法

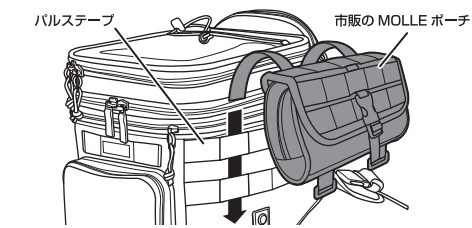
●容量の拡張方法

拡張ファスナーを開けることで、早く容量がアップします。



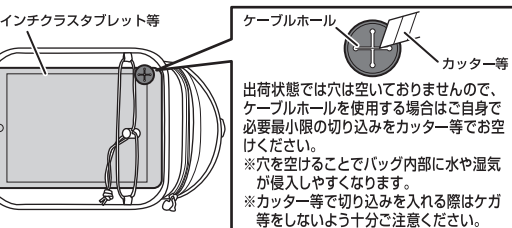
●パルステープ

サイドのパルステープに市販の MOLLE ポーチを装着できます。



●クリアトップポケットの使用方法

ツーリングマップルや 9.7 インチクラスまでのタブレットを収納可能です。充電ケーブル専用のケーブルホルダー付き。



ケーブルホルダー

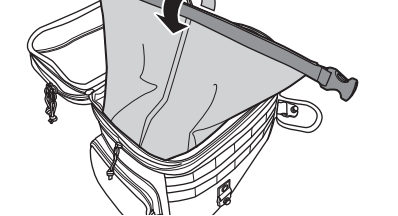
カッター等

出荷状態では穴は空いておりませんが、ケーブルホルダーを使用する場合はご自分で必要最小限の切り込みをカッター等で空けてください。
※穴を開けることでバッグ内部に水や湿気が侵入しやすくなります。
※カッター等で切り込みを入れる際はケガ等をしないよう十分ご注意ください。

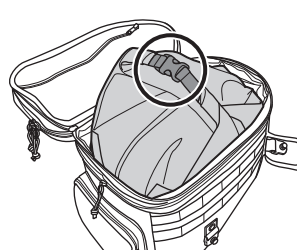
●防水インナーの使用方法

1 使用方法

●荷物を入れた後、内部の空気を抜きながら開口部を閉じ、最低でも 3 回以上開口部を巻きます。



●開口部左右のバックルを接続します。

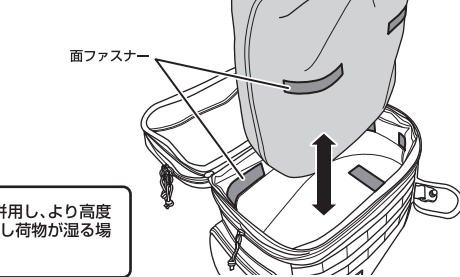


2 お手入れ方法

本製品は本体と防水インナーの 2 重構造で浸水を防いでいます。構造的に本体と防水インナーの間で浸水します。浸水は水抜き穴で抜ける構造ですが、雨天走行後は必ず防水インナーを本体から外し、本体と防水インナーを乾燥させてください。

3 装着方法

お手入れ後は取り外した逆の手順で本体と防水インナーの面ファスナーを合わせて装着します。



面ファスナー

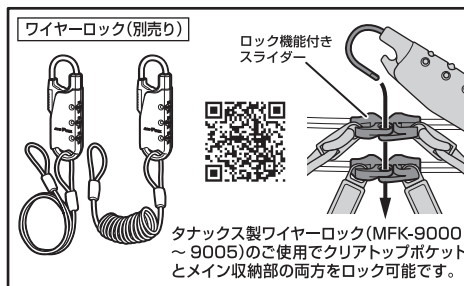
△ 注意

●完全防水ではありませんので水没や激しい雨天での走行では浸水する可能性があります。電子機器や大切な荷物はビニール袋等と併用し、より高度な浸水対策をお勧めします。●本製品は外部からの浸水には強い構造となっていますが、バッグ内部と外側の温度差により結露が発生し荷物が濡る場合があります。●バッグの外側が濡れた状態で開けると、入り口部の水滴等が中に流れ落ちる事がありますのでご注意ください。

オプションパーツ(別売り)の使用方法

●バッグ盗難防止モトフィスロックポケットの使用方法

ロックポケット内のロリングを利用してワイヤーロック (別売り) を装着し収納する事が出来ます。

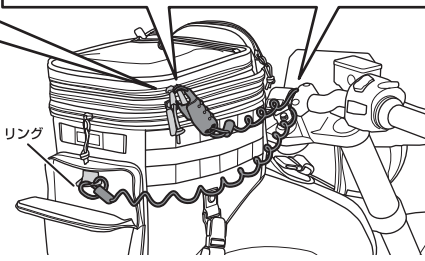


ワイヤーロック (別売り)

ロック機能付きスライダー

タナックス製ワイヤーロック (MFK-9000～9005) のご使用でクリアトップポケットとメイン収納部の両方をロック可能です。

駐輪時にワイヤーロックをハンドルバーやフレーム等を經由してバッグのロック機能付きスライダーに通す事で簡易的な盗難防止になります。



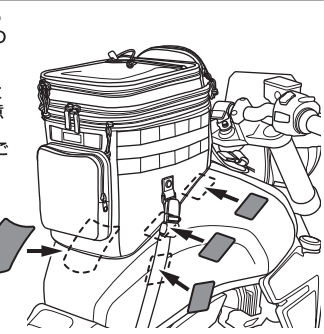
ロリング

●プロテクターシート

バッグやベルトと車体の接触面に貼る事で車体の傷付きを防止できます。モトフィスプロテクターシートは貼り付け場所により様々な形状をご用意しています。詳しくはタナックス Web サイトでご確認ください。



プロテクターシート



●小型マグネット・マグベースの使用方法

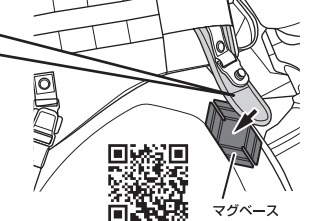
フラップ先端の収納ポケットに小型マグネット (別売り) を挿入することでバッグ本体と燃料タンクとの密着力をアシストする事が可能です。マグネットが貼り付かない素材の燃料タンクの場合はマグベース (別売り) を併せてご使用ください。

●小型マグネット (別売り) はバッグ本体と燃料タンクとの密着力をアシストするものです。小型マグネットだけを使用したバッグの装着はしないでください。必ず前後の固定ベルトも併用して確実に車両とバッグを固定してください。●マグネットやフラップに砂鉄等が付着したまま乗車を繰り返すと燃料タンクに傷が付きますので砂鉄等が付着した場合はマグネットを取り出して付着物を取り除いてください。●バッグ着脱の際は燃料タンクへの傷付き防止のため、フラップは引きずらずに必ず持ち上げてください。●燃料タンクが高温になるとマグネットも高温になり、タンク表面にマグネットの痕が付く場合があります。特に暑い夏場等はバッグを取り付けたままにせず、適宜取り外してください。

小型マグネット



小型マグネット



マグベース

保管とお手入れの方法

●バッグは車体から外して保管してください。装着したままの保管をすると劣化を早めることがあります。●表面等の汚れは、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で拭き取って、良く乾燥させてください。●雨天走行などで濡れた場合はそのままにせず、バッグ内の汚れと水分を拭き取り、すべてのファスナーを開いて、日陰の風通しの良い場所で乾燥させてください。●保管の際は、乾拭き・陰干しをしてから湿度・温度が低く、風通しの良い場所に保管してください。

△ 注意

ベンジン・シンナー・ガソリン等の有機溶剤の使用、および水での丸洗いは生地を傷める原因となりますので、お避けください。



タナックス株式会社
千葉県流山市おおたかの森西 3-5-7 〒270-0128 TEL: 04-7150-2450
TANAX CORPORATION
3-5-7, OTAKANOMORINSHI, NAGAREYAMA-SHI, CHIBA 270-0128, JAPAN TEL: +81-4-7150-2450

TANAX WEB サイトへ
簡単アクセス!
<https://www.tanax.co.jp>

TS1529062